

【取扱い厳重注意】

平成24年4月25日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 飯崎 準

平成24年4月20日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

福島県

(県災対本部住民避難・安全班長)

2 聴取日時

平成24年4月20日14時20分から同日15時00分まで

3 聴取場所

福島県自治会館会議室

4 聴取者

飯崎補佐

※ 複数人で聴取したときは、全員の氏名を記載する。

5 ICレコーダーによる録音の有無等

 あり なし (理由：(「対象者の希望による。」など簡潔に記載))

第2 聴取内容

双葉病院等からの患者の避難について

別紙のとおり

第3 特記事項

なし

【取扱い厳重注意】

別紙

1 被聴取者の身分

■■■■■は、震災後、県災対本部住民避難・安全班の副班長として避難のための車両の調整等を担当し、23年4月1日からは、同班班長として勤務していた者である。

2 震災後の状況

3/11の震災時、私は■■■■■控室に入っていたが、地震を受け、知事公館前に避難した。その後、「生活環境部は自治会館3階に集まるように」との指示があり、私は、地域防災計画上、住民避難・安全班の副班長として入ることになっていたため、住民避難・安全班に入った。

住民避難安全班は、避難のための避難経路及び輸送手段の調整・確保が任務であり、具体的には、市長村からの要望に応じて輸送のためのバスを調整したり、避難のための経路を教示するなどの業務に従事していた。避難者数の集計は、情報収集班が行っており、集計の都度、住民避難安全班に報告が入っていた。

他方、避難所の開設は、救援班の業務となっていたが、■■■■■途中から、住民避難安全班で、県有施設を中心に、避難所の調整も行った。ただし、災害時要援護者対策は救援班の業務であり、病人を体育館に避難させるわけにもいかないため、病人の避難先調整は、住民避難安全班では引き取らなかった。

3 3/13 21:40作成の要救助者リストについて

～別添1の資料を見せたところ～

この表は、救援班が作ったのだと思う。病人は、救援班の所掌であり、住民避難・安全班では対応していない。

この際、バスの手配については、救援班から依頼されたので、スクリーニング会場までのバスの手配をしているが、避難先の調整にはかかわっていない。■■■■■

先ほどもお話したとおり、住民避難安全班の業務は、地域防災計画上、避難路・輸送手段の調整・確保とされており、その範囲で、病院からの避難に携わっただけである。

以上

-35902-

TEL 010-22903-

11-03-14-05:06/001-001

024

双葉地域の要救助者リスト

双葉地域の要救助者リスト

小高あかざか病院 WR WR	南相馬市小高区	患者60名 職員21名	0244-44512/ 30号の電話	いわき光洋高校 予定
南相馬市立小高病院 WR WR	浪江町権現坂台 天柳町-6	患者67名 職員36名	0244-44-2025 越後町	浪江町権現坂台 天柳町-6
西病院 WR WR	浪江町権現坂台 天柳町-6	患者57名 職員18名	0244-44-2025 越後町	いわき光洋高校 医大 予定
法人双葉病院 WR WR	大雅町新町176-1 024	患者80名 職員92名	0244-32-2191 国カバ子カバ子カバ子	いわき光洋高校 予定
介護S4-1ビル双葉 WR WR	大雅町新町76-1 *双葉病院と300m 024	患者100名 職員83名	0244-32-2191 国カバ子カバ子カバ子	いわき光洋高校 予定
(特老) ホソヅル双葉 WR WR	浪江町末森八合田 134	入所者280名 職員130名	0244-32-2191 国カバ子カバ子カバ子	いわき光洋高校 予定
(特老) ひまわり荘 WR WR	浪江町大字加瀬字 今神78	入所者130名	0244-32-2191 国カバ子カバ子カバ子	いわき光洋高校 予定

相双保健センター 検査センターから
各施設へ搬送 29.11.8

14 3-15 検査センター 出発

ERC 総括班

Fax:

2011年 3月14日(日) 5:27 P002/002

024
351
0225

024
351
0225

024
351
0225